◎特集

がん患者を囲む支援の輪

～北上市緩和ケア事業15年～

日本人の3人に1人はがんで亡くなる時代。いまや誰でもかかりうる身近な病気です。

市は平成6年から、医療・福祉関係者、市民ボランティアと連携し、自治体として全国初の「在宅緩和ケア事業」をスタートさせました。時代の流れに沿って現在は「緩和ケア支援事業」へ移行。事業内容は変わりつつありますが、がん患者を支援する取り組みは続いています。

一市民の寄付から始まった行政初の在宅緩和ケア事業

昭和56年、家族をがんで亡くした一人の市民から、がん予防対策にと、市に100万円が寄付されました。

市は「ガン予防基金条例」(現在「がん対策基金条例」)を設け、市民からの寄付と市の予算で積み立てを始めました。また、学習会やホスピス施設の視察、市民への啓発セミナーなどを実施。北上医師会などと時間を掛けて協議を重ね、平成6年8月、北上市緩和ケア事業(以下、市緩和ケア)がスタートします。

行政、医療福祉、市民が一体となった北上独自の方式

市緩和ケアは、行政、北上医師会、市内総合病院、福祉関係者、市民ボランティアがタッグを組んで在宅の末期がん患者を支える、全国でも初めてのスタイル。「北上方式」と呼ばれ、注目を集めました。

ケアの対象は、現代医学をもって最善を尽くしても治療が難しい末期がん患者の自宅療養。本人が在宅での療養を希望する場合、痛みや精神的な悩みを和らげ、その人らしい生活を最後まで過ごしてもらうため、また家族も安心して看護できるように支援するものでした。

これは一般にホスピスと言われ、病院などの施設が中心に行っています。当時、欧米では進んでいたホスピスケアですが、日本では始まったばかり。まして自治体が主体となって行う在宅型緩和ケアは例がなく、市緩和ケアは手探りで進められました。

自宅で暮らしたい患者の願いをかなえるために

「今も昔も変わらず、家に帰りたいと願う患者はいます」

及川放射線科内科医院の及川優院長は、長年在宅療養に力を注ぐ医師の一人。市緩和ケアにも立ち上げ当時からかかわってこられました。

在宅を希望した末期がん患者が家に帰り、驚くような回復を見せたこと、患者と家族が充実した時間を過ごせたことは、これまでの在宅ケアで体験されています。ただ、家庭の事情、医療体制など、在宅療養は容易ではないことも実感されています。

市緩和ケアは、その難しさをカバーしようと、医師、看護師、保健師、ボランティアなどで緩和ケアチームを結成。24時間体制で末期がん患者の

在宅生活を支えました。

患者も動き出し、7年に乳がんの患者会が誕生。市は家族会も必要と考え、がん家族の会の設立を呼び掛けました。

行政主体からサポート役へ
市の役割を変更

緩和ケアのサービスを受けるためには市への申請が必要で、利用開始までに時間がかかることがありました。そこで、病院と在宅医が直接連携を取る形にシステムを改め15年、「北上市緩和ケア支援事業」に移行。医療面は医師に任せ、市は在宅療養の支援に力を入れることになります。

北上方式(6～14年)のサービス利用者総数は50人。14年の、がん患者が自宅で最期を迎えた率は市11・1%、県4・0%、国6・17%(市健康増進課調べ)。手探りながらも先駆的な取り組みとして、成果がみられました。

家族からも「願いをかなえてあげられて良かった」「最期を一緒に安らかに過ごせた」という声が寄せられました。

がん対策をめぐる環境の変化
現在の市緩和ケア支援事業

サポート役となった市は、在宅療養をしやすい環境を整えます。介護用品購入費・レンタル料を補助。ボランティア派遣や患者会の活動のバックアップも行ってきました。

市、医療関係、市民の連絡会議も毎年行っています。

18年、がん対策基本法が成立し、国を挙げての対策が始まりました。同年、介護保険の特定疾患に末期がんが加わりました。21年には県立中部病院に緩和ケア専門の病棟がオープン。「施設と在宅」両輪でのケア体制が整いました。今では、緩和ケアは治療の開始と同時に行うものと考えられるようになっています。

取り巻く状況の変化と患者のニーズに合わせ、形を変えてきた市の緩和ケア事業。独自のがん対策は多くの協力の下、国に先駆け行われてきました。これまでの取り組みは北上の先進的な緩和ケア体制へ受け継がれています。

北上市緩和ケア事業の歩み

S56	市民から100万円の寄付 「北上市ガン予防基金条例」制定 …がん予防を目的に、寄付のほか市の予算からも積立金を拠出
H2	『北上市ホスピス等検討懇談会』発足 …緩和ケア事業の前身。「ホスピス」について、市、北上医師会などで協議
H3	市民講演会、16地区でのビデオ上映会
H4	「北上市がん対策基金条例」に変更 …基金の目的として、がん予防のほか緩和ケア対策を加える 市民セミナー実施
H6	『北上市緩和ケア事業』スタート(8月)
H7	乳がん患者の会「ひまわりの会」発足
H8	「がん対策事業協力会」発足 …緩和ケア事業やがん対策基金活用事業などに関して助言、情報提供
H10	厚生省補助事業　在宅終末期医療支援調査実施
H12	がん家族の会「おでんせの会」発足
H14	がん対策基金積立額1億円達成 がん患者の会「びわの会」発足
H15	『北上市緩和ケア支援事業』に変更 …行政はコーディネート役からサポート役へ。介護用品購入費を補助
H17	北上市がん対策基金活用事業開始 …乳房・頭髪補正具購入費を補助 緩和ケア支援事業見直し …補助対象に介護用品7種類追加。介護保険適用者でも利用可能とする
H18	(がん対策基本法成立) (介護保険の特定疾患に末期がん追加)
H21	『北上市がん対策基金活用事業』に変更 …緩和ケアと基金活用事業を一本化

●北上市緩和ケアハンドブック
昨年6月に発行。自分や家族ががんになったとき、どうしたらいいか分からないときに役立つようまとめました。緩和ケア支援内容が詳しく掲載されています。問い合わせは健康増進課へ

●岩手県立中部病院緩和ケア病棟
県内初の独立平屋建て病棟。個室18室、2人部屋3室の計24床で、入院基本料は1日3万7,920円(各種医療保険適用)。ガラス張りの明るいラウンジがあり、家族や面会者の交流の場として使用されています。設計には、がん患者の意見が取り入れられました

互いに支え合う
仲間がいる
市民による患者の会
患者を支える地域力

市内では3つのがん患者・家族の会が活動しています。乳がん患者「ひまわりの会」、がん患者「びわの会」、そしてがん家族「おでんせの会」です。一人ひとりが体験や思いを持ち、お互いに励まし合おうと集まっています。

21年4月にオープンした県立中部病院緩和ケア病棟新築に当たり、3団体は署名活動を展開。「自宅にいるような環境に」と、8360人の署名を集めました。3団体代表の故黒田弘子さん(前びわの会代表)は平成15年、増田寛也前県知事と北上市長へ要望書と署名を提出。多くの緩和ケア病棟が病院の中に設けられている中、中部病院が平屋で独立した緩和ケア病棟になった背景には、患者や家族の強い働きかけがありました。黒田さんは治療をしな

◎紹介している会のイベント写真には、がん患者・家族・会員ではない人が含まれています。

びわの会と合同の里山散策会

乳がん患者の会

ひまわりの会

平成７年、７人の乳がん患者が集まって始めた会です。当時、乳がん友の会「アイリスの会」が県内に誕生したときでした。その中に北上から参加している人もいたため、そのメンバーで集まり、ひまわりの会を設立。現在は30代から70代の幅広い年齢層の会員が30人います。

「ひとりで悩まず、みんなで語り合って楽しく生きる」を目的に、持ち寄った料理で昼食会をしたり、お茶を飲みながらおしゃべりしたり。日帰りで温泉旅行にも出掛けます。患者の会「びわの会」と一緒に、里山散策会も実施。新しい仲間づくりの場となり、輪が広がります。

泣くときは泣く、笑うときは思いっきり笑う。そんな普通のことが一番幸せだと感じてもらえるような会でありたいと思っています。

▶活動…昼食会、温泉旅行、忘年会など
▶例会…年３回(３・７・11月)
▶会費…年会費500円
【問い合わせ】
小原節子 ☎ FAX 65-4007

代表 小原節子さん

びわの会主催のチャペルコンサート

がん患者の会

ペイシェントアクティブ びわの会

びわの会は平成14年、がん患者が集う喫茶店から誕生しました。病気になると普段の生活もままなりません。そこで、患者同士で日々の生活を助け合おうと結成。がんと共に自分らしく生きていこうと活動しています。

病気を正しく理解し、知識を得ることは患者や家族にとって必要なことです。当会では、講演会や勉強会「患者の学校」を開催。季節の行事も大事にし、患者同士、また患者と家族が理解し合える場になればと企画しています。

「ひとりで悩まず語り合おう」を合い言葉に、悲しみ、苦しみ、喜びを分かち合い助け合う。そんな仲間がいたら、たとえ病気であっても心は健康になれるはずです。２月には講演会があります(7ページ参照)。ぜひお越しください。

▶活動…会報の発行、患者の学校、コンサートなど
▶例会…毎月第３土曜日 午後１時～３時
▶会費…年3,000円(賛助会員1,000円)
【問い合わせ】
高橋みよ子 ☎ FAX 64-0008

代表 高橋みよ子さん

がらの、命を懸けての訴えでした。
患者や家族の行動が充実した緩和ケア体制を育てる一方、ボランティアは生活を支える点で重要な存在です。
北上市緩和ケアボランティアは市緩和ケア支援事業の一つで、在宅患者の生活をサポート。市が養成した一般ボランティアを派遣します。会員は自主的に研修会や視察を行い、ボランティアの資質の向上に努めています。また、県立中部病院のがん情報サロン「虹」は、専門ボランティアが主体で運営。情報提供や相談に応じています。
患者自らの行動。緩和ケアに欠かせない市民の理解と協力。医療では埋めきれないものを患者同士、ボランティアは支えています。

北上市緩和ケアボランティアの会

市のボランティア派遣で活動する、市民ボランティアの会です。在宅緩和ケア患者の希望により、話し相手や買い物など、身のまわりのちょっとしたお手伝いをします。

会員自身、家族に患者がいた経験を持ち、何か役に立てばという思いで参加している人もいます。他人が家庭内に入るのを好まないご家族もいらっしゃいますが、わたしたちは必要以上に入り込むことはありません。患者が一人でいるのは不安なもの。誰かがいるだけでも安心できます。他人だからこそ話せる事もあるかもしれません。ボランティアで用が済む事などは、どうぞお気軽にご利用ください。

会長 松岡幸子さん

内容…掃除、洗濯、食事・散歩介助など
利用料…無料(１人２時間程度)
申し込み・問い合わせ…健康増進課

がん情報サロン「虹」

県立中部病院の１階総合受付ロビーに設けられた、がんに関する情報を集められるスペース。がんの種類・治療法に関するパンフレット、がんについて学べるＤＶＤや本がそろっています。情報が少なく不安になる患者やその家族にとって、光となるようなサロンを目指しています。

がんで抱えている悩みや不安を、サロンボランティアに相談することもできます。ボランティアはそれぞれの経験や知識を生かし、医療者と患者のつなぎ役を担っています。医師や看護師に話しにくいことも話せる場として、皆さんをお待ちしています。

曜日	担当ボランティア(相談時間…10:00〜14:00)
月	奥山明子さん(元県立病院相談員)
火	工藤美佐子さん(看護師)
水	高橋みよ子さん(がん患者びわの会代表)
木	羽岡洋輔さん(薬剤師)
金	生嶌(しょうじま)陽子さん(日本基督教団土沢教会牧師)

【問い合わせ】
県立中部病院
がん相談支援室
☎71-1511

緩和ケア病棟前のおでんせ菜園

がん家族の会

北上おでんせの会

平成12年２月、市の呼びかけで集まった、がん患者の家族会です。家族を失った悲しみを共有し、励まし合い支え合っています。みんなで一緒に会話や活動をするうちに、心が軽くなっいくのを感じることもできます。

県立中部病院の緩和ケア病棟前には、ボランティアで「おでんせ菜園」をオープン。患者が季節感を感じられるよう、春から秋にかけて野菜を育てました。昨年秋には収穫祭を企画。患者、会員、医療関係者が集い、秋の味覚を楽しみました。現在、タオル帽子を試作中です。

思い出すことがつらい遺族もいるでしょう。特に男性はこもりがちです。けれども、一緒にいることで気持ちが少しでも安らげたらと、微力ながら長く続けていきたいと考えています。

▶活動…会報の発行、菜園管理、患者との交流会
▶例会…毎月第１水曜日
午後６時〜８時30分
▶会費…年会費1,000円
【問い合わせ】
事務局　児玉智江 ☎FAX67-3633

会長 高橋慶悦さん

がん医療を担い支える県立中部病院の取り組み

開院からまもなく1年の県立中部病院。県内初の独立緩和ケア病棟が導入されるなど、注目を集めています。地域がん診療連携拠点病院としての地域への取り組みについて、北村道彦病院長と星野彰地域医療科長にお伺いしました。

―地域がん診療連携拠点病院である中部病院の役割は？

北村　地域が一つにまとまって患者を支える医療体制を整えていく役割を担っています。

これまでは医者からの一方的な医療でした。今は十分な説明をした上で患者の気持ちを尊重し、自ら治療方法を選ぶ世の中になりました。患者が在宅を望む場合は医師や医療スタッフのほか、介護、福祉、市民のボランティアなどによる、患者や家族を支える体制が必要です。当院は地域と一緒に取り組む医療を目指し、患者の状態に合わせて診断、治療、ケアの仕方をコーディネートしています。具体的には、患者と地域の受け入れ状況に応じて病院が診療所を推薦。地域開業医と共に緩和ケアの講習会を行って連携を深めたり、市民への情報提供をしたりしています。

―中部病院でのがん対策は？

北村　積極的な治療として手術、放射線治療、化学療法があります。地域の医療機関と協力しながら、最先端の機器と専門のスタッフをそろえて治療に当たっています。

星野　療養支援や緩和ケアも治療と同時に取り入れています。リンパ浮腫(むくみ)外来や痛みの治療としてペインクリニック。緩和ケア外来も受け付けていますし、一般病棟の入院患者へは緩和ケアチームを組んでいます。情報提供・相談としては、がん相談支援室とがん情報サロン(5ページ参照)を設置。支援室では、ソーシャルワーカーと看護師がお話を伺います。

緩和ケア病棟では、体と心の痛みを和らげながら、普段の生活が過ごせるよう支援しています。家族の支援も含まれます。緩和ケアは、医療面と生活面と幅広いサポートが必要。生活面を支援してくださる地域の皆さんと、わたしたち医療チームとの連携は大切です。北上はその土台ができていると思います。

―今後の展開について。

北村　健康教室などを企画し、地域の皆さんに関心を持ってもらう機会を考えたい。市の出前講座にも登録しています。健康なうちから地域医療、がんの予防などに関心を持ち、意見や情報を交換し合えればとも思っています。病院から地域へ出向き、皆さんにも病院へ来てもらえるような、開かれた病院を目指しています。

北村 道彦（きたむら みちひこ）　病院長

県立胆沢病院副院長、北上・花巻厚生病院統括副院長を経て、平成21年4月より現職。東北大学医学部卒

星野 彰（ほしの あきら）　地域医療科長

旧県立北上病院での勤務時から、緩和ケア体制の整備に尽力。平成21年4月より現職。東北大学医学部卒

平成22年 1月22日

●リンパ浮腫外来

手術や放射線治療後に起こるリンパのむくみを専門看護師がマッサージし、セルフケア支援も行います。週2回(月・水)で1回90分(予約制)。診察料のほか規定指導料6,300円。ニーズに応え、今後の体制を調整中です

がん検診で早期発見・早期治療

がんは男性の２人に１人、女性の３人に１人がかかるといわれるほど身近な病気です。とはいえ、がんにかかると体も心もつらく、生活も大変です。

がんは医療技術の進歩と検診での早期発見で、治せる病気になりつつあります。早期発見・早期治療のためにも、検診を積極的に受けましょう。

市では、各種がん検診を実施しています。集団検診、個別検診のどちらでも受診可能(肺がん・前立腺がん検診は集団のみ)。自分のライフスタイルに合わせて上手に利用しましょう。

●市のがん検診

検診名	対象者(市民)
胃がん検診	35歳以上の人
大腸がん検診	35歳以上の人
乳がん検診(隔年)	40歳以上の女性
子宮がん検診(隔年)	20歳以上の女性
肺がん検診	40歳以上の人
前立腺がん検診	50歳以上の男性

日程一覧表と検診料の詳細は３月に全戸配布します。前年度(前回)市の検診を受けている人には、継続して受診通知書を郵送します。新規で受診したい人は健康増進課内線3172～3174までお申し込みください。

びわの会　患者の学校

「がんの話＆乳房再建」

第一部「何故がんになるのか、どうすれば防げるのか」
第二部「最新の乳房再建：自家組織VSインプラント」
講　師　南雲吉則 氏
(ナグモクリニック東京院長)
館　正弘 氏
(東北大学医学部形成外科教授)

▷**とき…２月14日(日)**午後２時～５時30分(午後１時30分会場)
▷**ところ…**さくらホール・中ホール
▷**参加料…**1,000円
▷**問い合わせ…**ペイシェントアクティブびわの会(高橋)☎64-0008

北上市がん対策基金活用事業の補助金を活用

北上市がん対策基金活用事業

【問い合わせ】健康増進課内線3175～3177

■緩和ケア支援

介護用品の補助……

在宅療養中の末期患者に介護用品の購入費とレンタル料の９割を補助(上限あり)。

●対象…入浴用いす・腰掛け便座の購入費、ベッド・エアーマット・車いす・歩行器・吸引吸入器などのレンタル料

※申請には主治医の証明書、介護用品の領収書が必要です。

患者・家族の相談……

●時間…8:30～17:00
●場所…健康管理センター

ボランティア派遣(P5参照)……

市民講演会・研修会……

市民啓発を目的に開催。

■補正具購入費の補助

がん患者が積極的に社会参加できるよう、購入費の９割を補助(上限あり)。

●対象…乳房・頭髪補正具

※申請には主治医の証明書、補正具の領収書が必要です。

■患者会、家族会の補助

市民を対象とした講座の開催など、会の活動費を補助

■がん検診初該当者の無料化

22年度から、がん検診に初めて該当する人の受診料を無料化

がん対策基金　皆さんからの寄付と市の予算を積み立て、上記事業に活用しています。基金への寄付は随時受け付けています。

北上らしい健康な環境づくりを目指して

末期がん患者の在宅支援から、がん患者・市民活動への支援まで。市の支援は少しずつ広がってきました。１億円を達成したがん対策基金を有効に活用し市民に還元できるよう、本年度から「北上市がん対策基金活用事業」として取り組んでいます。来年度には、がん検診の対象年齢に初めて該当する人の検診料無料化を新たに実施。がんの早期発見・早期治療、早期予防につなげるため、そして若いうちから健康づくりに関心を持ってもらうことを狙いとしています。無料化は３年間実施し、効果を検証した上で基金活用方法を見直します。

市緩和ケア支援事業では、介護保険で介護用品の補助が受けられなかった場合、介護保険に代わって対応します。介護保険では補助対象外の介護用品へも一部補助。他の制度で補えない場合の受け皿として、お気軽にお問い合わせください。

北上市の、患者が自宅で最期を迎えた率は23・２％(平成19年・市健康増進課調べ)。国や県の約３倍です。家で暮らしたいという患者の望みを医療が応え、地域が支えてきた結果なのかもしれません。

市は今後も、がん基金を活用した北上らしいがん対策、健康づくりに努めていきます。

＊＊＊＊＊

病気になって改めて思う健康のありがたさ。普段の生活では忘れがちです。自分が患者になったとき、どう生きるか。がんになっても安心して暮らせるまちがあること、支えてくれる人々がいることに目を向け、考えてみませんか。